



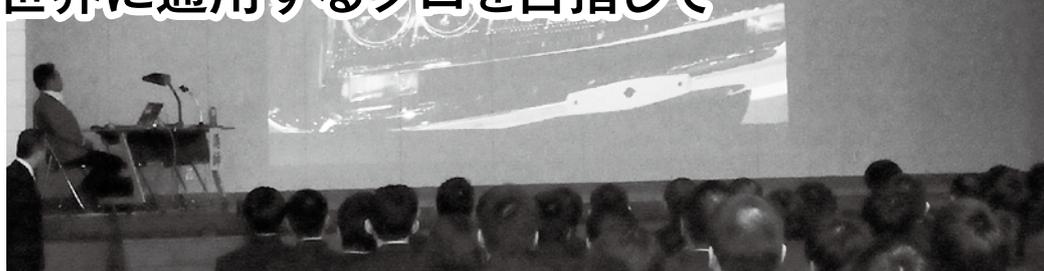
■被災地出張授業……2015年 10月27日

修羅場を呼び込め —世界に通用するプロを目指して—



講師：志賀 俊之 副代表幹事(日産自動車 取締役副会長)

IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業を、ものづくりなどを通して、地域の復興に貢献している岩手県立久慈工業高等学校で行った。今回は、志賀俊之副代表幹事が、世界で活躍する人材になるために必要なことについて語った。



自動車会社が直面する さまざまな課題

現在、世界では11億5,000万台もの車が走っています。自動車は生活を豊かにし、経済発展に貢献しましたが、一方で大きな社会問題にも直面しています。

一つが地下資源の問題です。近い将来、石油は枯渇すると予想されている中で、毎年8,500万台もの新車が売られています。さらに、地球の温暖化も深刻な問題です。産業革命前と比べて気温上昇を2度に抑えるということが世界の目標です。そのためには、CO₂排出量を大幅に削減しなくてはなりません。

この対策として、日産自動車が開発したのが電気自動車です。車だけでなく、充電ステーションなどの基盤整備も進めています。電気自動車の電池を自宅の電気代節約や停電時に活用させる、LEAF

to Home システムも開発しました。

さらに、交通事故防止も自動車会社の大きな課題の一つです。交通事故の大半は、人間のミスから起こります。特に高齢化が進む日本では、高齢者による交通事故が増加しています。それらを解決するのが、人間に代わって車を操作する自動運転の技術です。

現在、高速道路での試験運転に成功し、東京オリンピック・パラリンピックまでには、一般道路でも走行できるレベルを目指しています。

このように自動車会社が直面する大きな課題の解決に向けて、一つひとつ努力をしていくことがとても重要なのです。

目標を持つことの大切さ

私は子どものころから車が大好きでした。父が和歌山日産自動車に勤めていたため、日産の車は常に身近な存在でした。

私は、東京の日産本社に就職をしましたが、早く出世して故郷に戻り、和歌山日産の社長になろう、という目標を持ちました。社長になるには経営はもちろん、人事や労務なども学ばなくてはなりません。また、技能や知識を身に付け、「社長になるんだ」という心構えで、常に何をすべきかを意識して働きました。その結果、和歌山日産の社長ではなく、本社で経営を担うことになりました。

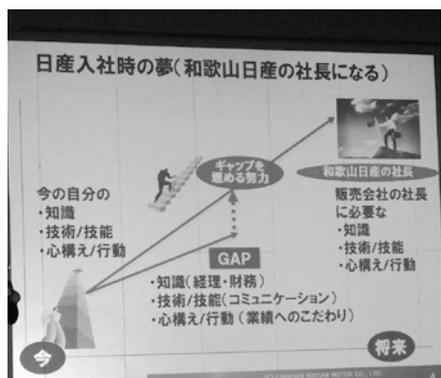
目標を持って技術や知識、心構えを磨くことは、とても大切です。目標があれば、現状とのギャップを埋めるために努力し、目標以上の成果を得ることができるのです。

私は、中学生の時に最初の挫折を味わいました。生徒会長になった私は、男子生徒は全員丸刈りにせよという学校の規則が嫌で、生徒全員に丸刈りをどう思うかアンケートをとったのです。すると、自分はこんなに嫌なのに、他の生徒はさほど丸刈りを嫌っていないことが分かりました。自分の思い込みでは、誰もついてこないのだと実感しました。悔しい思いをしましたが、後の人生で役に立ったと今では感じています。

修羅場を乗り越え 人は大きく成長する

世界と戦う人材になるには、目標を掲げて努力するだけでは足りません。自分を一気にステップアップさせる、大きな壁を乗り越えるような体験が必要です。それは、進んで修羅場を経験する、ということです。修羅場は非常につらく感じますが、それでも逃げずに挑戦し続けます。人は思った以上に大きく成長するのです。

例えばサッカー日本代表は、ワールドカップで何度も挫折を味わいながら、大



きく成長しました。長友佑都選手も本田圭佑選手も大変な苦労を経験して、世界レベルの選手に成長しています。本田選手は、小学校の卒業文集で「世界一のサッカー選手になる」という夢を掲げ、

そのために努力して実現させました。

日産では、販売会社の技術レベルを上げるため、毎年、全国日産サービス技術大会を開催しています。優勝者は、日々働く中で相当な努力を積み重ね、見事な

成績を収めています。私は彼らの話を聞くと、いつも胸が熱くなります。

「人生はやるか、やらないか」で決まります。皆さんもたゆまぬ努力で世界で活躍できるレベルの人材になってください。

質疑応答

Q 人の上に立つ人間として心掛けていることは何ですか。

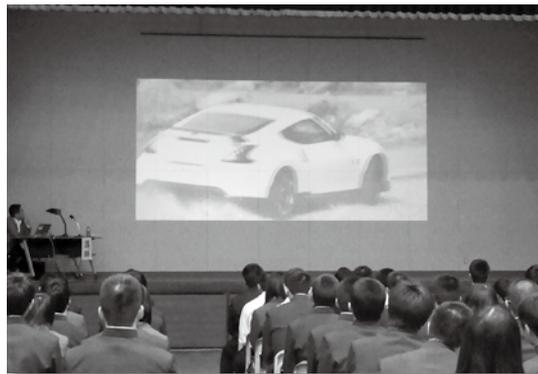
A 私が生徒会長になった時に、自分の思い込みで行ったことが、みんなから賛同を得られなかった経験についてお話ししました。その経験から、自分で思い込まず、まずは人の意見を聞くことが重要だと学びました。今でも多くの人の話をよく聞いた上で、最終的な判断を下すようにしています。

Q 日産には、これだけは絶対にトヨタに勝てるという部分はありますか。

A GT-Rを生み出したことで、まだ日本の車が世界で認められていなかった1964年に、レースでスカイラインがポルシェを抜いたことに、日本中が沸き、GT-R伝説が生まれました。GT-Rの開発者は、多くが工業高校を卒業して日産に入社し、車を知り尽くした現場の人間です。それが日産の誇りでもあります。

Q 社員に心掛けてほしいことは何ですか。

A 現在、世界で熱心に自動運転の開発に取り組んでいるのは、グーグルやアップルといった会社です。世界で



元気がある会社はいろいろなことに挑戦し、自動車の技術もどんどん変化しています。日本の会社は少し元気がないですが、日産の従業員には新しいことにどんどん挑戦してほしいと思います。

生徒の感想

●人生の中で修羅場や大きな壁から逃げずに挑戦すれば、自分の目指す目標より高いところに行ける、ということを教えていただきました。社会人になっても、常に挑戦者の心を忘れず、さまざまな面でどん欲になりたいです。また、周りの人と共感し合うことの大切さや、自分の勝手な思い込みに惑わされないことも学びました。

●特に印象に残ったことは二つです。一つは、「自分の思い込みで行動しても誰もついてこない」という言葉です。僕は将来、現場監督になりたいと考えているので、他の人の意見をよく聞いて行動することを心掛けたいです。二つ目は「常識にとらわれない」ということです。住宅のデザインを考えると、常識にとらわれてはよりよい発想が浮かばないだろうから、自分なりの発想をたくさん考えたと思いました。

●講演で日産のCMを見せてもらったとき、鳥肌が立ちました。「人生はやるか、やらないか」。その通りだと思いました。今日の話これから人生に活かしていきたいです。

●ただ努力するのではなく、自分が何をしたいのか考える必要があると思いました。また、目標と目的は違うことも

学びました。部活動でウエイトリフティングをやっていますが、そうした考えを部活でも役立てていきたいです。

●日産の副会長の話をお聞きするという、貴重な時間を体験できたことは、自分にとって大きなものとなりました。志賀さんの優しくすべてを包み込むような口調は、今でも耳から離れません。トップに立つ人間として心掛けていることや重要なことについて、話を伺えて良かったです。

●これから社会に出ていく上で、さまざまな壁が立ちますが、日産がCO₂の問題で目標を立てて解決しているように、自分も明確な目標を立てて努力できる人間になりたいと思いました。日産の技術やチャレンジ精神はすごいと思いました。今日の話聞いて、もっと日産が好きになりました。

●私の父が日産の車が好きで、スカイラインやGT-R、ノートにずっと乗ってきたので、講演会はとても楽しく興味を持って聞きました。独自のこだわりを持った技術開発や車づくりにとても感心しました。これからの自動車業界の波に乗るより、新しい独自の技術を開発していく日産自動車に、さらに興味・関心が沸きました。自動車整備工を目指しているので、講演会で教えていただいた言葉を自分のものとして、頑張っていきたいと思います。